

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2008年2月)

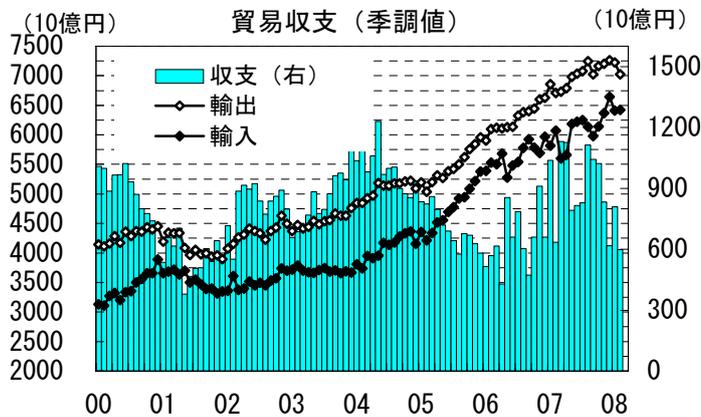
発表日2008年3月26日(水)

～輸出は堅調維持、1-3月期の成長を押し上げる可能性が高まる～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 柵山 順子

TEL: 03-5221-4548



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	
07年2月	635	6709	6073	961
3月	1130	6729	5599	1603
4月	1127	6788	5662	903
5月	791	6978	6186	396
6月	816	7037	6221	1246
7月	829	7079	6249	682
8月	1113	7247	6134	744
9月	1043	7023	5980	1609
10月	1022	7164	6143	999
11月	834	7205	6371	784
12月	617	7263	6646	867
08年1月	809	7222	6413	-87
2月	598	7022	6424	970

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
07年2月	9.7	11.1	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 0.3	2.5	10.4	2.6	7.6	3.7	4.5	16.4
3月	10.3	9.5	0.7	▲ 4.3	▲ 3.7	7.4	0.6	8.0	▲ 6.8	8.8	0.7	▲ 13.0
4月	8.2	7.8	0.4	▲ 13.1	6.5	7.1	3.8	10.9	▲ 6.4	21.3	▲ 0.4	▲ 4.9
5月	15.2	8.4	6.2	▲ 13.3	8.8	12.2	15.4	14.8	0.5	12.5	8.7	2.0
6月	16.2	9.7	5.9	▲ 8.4	7.8	13.5	10.4	17.2	▲ 5.8	▲ 4.5	4.9	▲ 5.2
7月	11.7	9.0	2.5	▲ 10.5	2.6	10.6	16.7	17.1	▲ 0.3	6.0	15.1	1.4
8月	14.6	5.8	8.3	▲ 5.0	4.6	13.1	5.8	12.0	▲ 5.5	▲ 10.7	▲ 0.4	▲ 5.1
9月	6.3	▲ 0.0	6.3	▲ 12.2	8.7	7.5	▲ 3.0	6.3	▲ 8.8	▲ 7.7	0.2	▲ 10.8
10月	13.8	▲ 0.7	14.6	▲ 3.2	21.5	14.4	8.7	11.4	▲ 2.4	8.1	6.7	▲ 1.9
11月	9.6	▲ 1.6	11.3	▲ 5.8	6.1	14.8	13.3	13.6	▲ 0.3	1.1	6.6	▲ 0.6
12月	6.8	▲ 0.8	7.7	▲ 13.4	4.4	10.4	12.3	16.6	▲ 3.7	14.6	▲ 5.9	▲ 2.4
08年1月	7.7	▲ 2.4	10.4	▲ 17.8	22.8	9.8	9.2	10.8	▲ 1.5	▲ 3.3	▲ 1.0	▲ 0.2
2月	8.8	▲ 5.3	14.8	▲ 5.0	15.7	16.8	10.1	14.5	▲ 3.8	3.2	▲ 3.8	▲ 7.3

○2月の貿易収支は4ヶ月ぶりに前年比プラスに

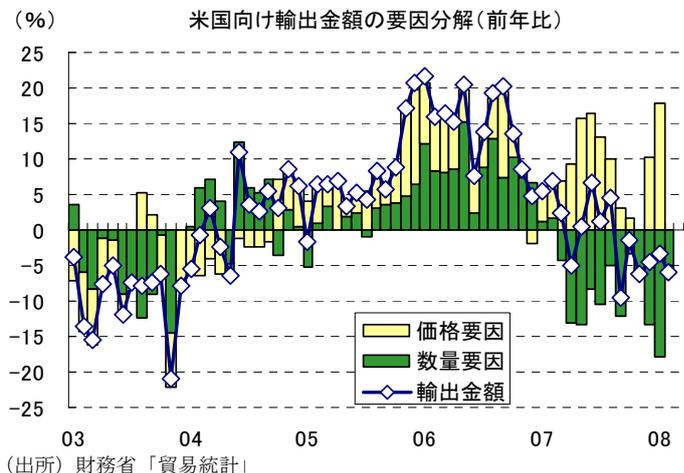
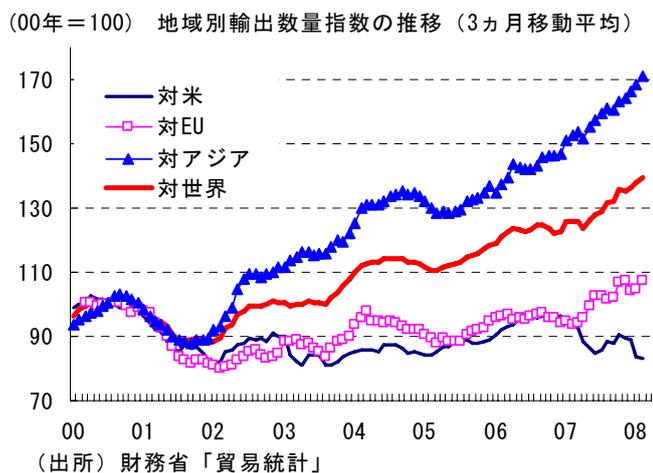
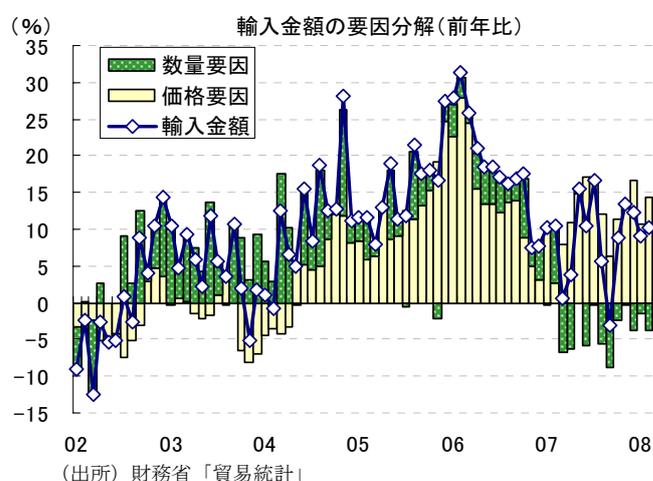
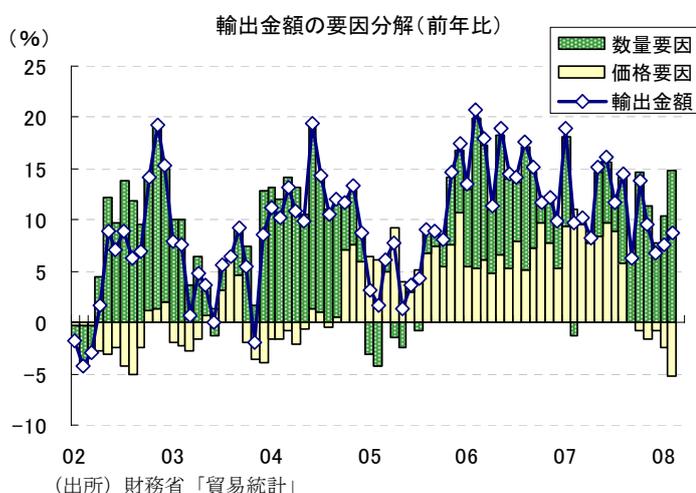
2月の貿易収支は9,700億円(原数値)、前年比+0.9%と4ヶ月ぶりに前年比プラスとなった。輸出金額をみると、前年比+8.7%と前月(同+7.7%)から伸びが小幅高まった。アメリカ向けが引き続き減少したが、EU向けは堅調さを維持している。アジア向けについても、中国を筆頭に、そろって高い伸びとなった。また、中東やロシアなど新興国向け輸出も好調な推移が続き、輸出を押し上げた。総じて見れば、米国向け輸出の減少が続く中、アジア、新興国向けが高い伸びを維持し輸出を牽引するという構図が2月も続いている。一方、輸入金額をみると、内需の伸び悩みを背景に輸入数量は減少が続いているものの、原油価格高騰の影響がそれを上回り、前年比+10.1%(前月同+9.2%)と高い伸びとなった。

○1-3月期も外需がGDPを押し上げる可能性が高まる

地域別(数量ベース)にみると、米国向け(前年比▲5.0%←前月同▲17.8%)は減少が続いたものの、

減少幅は縮小した。前月船舶の影響で大きく伸びが高まったEU向け（同+15.7%←前月同+22.8%）は剥落による伸びの鈍化が懸念されたが、テレビなどの部品や建設機械を牽引役に高い伸びを維持した。また、アジア向け（前年比+16.8%←前月同+9.8%）については、内需拡大を背景に自動車などが好調さを維持したことに加えて、NIES向けの船舶にも押し上げられ、ほぼ1年ぶりとなる高い伸びになった。中東、ロシアなどその他地域向けについても自動車や建設機械、テレビなど映像機器を牽引役に好調な推移となっている。総じてみれば、米国向け輸出の低迷が続く中、消費や投資といった内需が好調なアジアや新興国向けの輸出が下支えとなり、輸出は堅調さを保っている。

1-2月平均で見ても、輸出数量は10-12月期対比+3.8%と前期（10-12月期同+3.2%、7-9月期同+3.1%）を上回る高い伸びになっている。2月はうろう年の影響で押し上げられている可能性もあるが、それを考慮しても輸出は堅調さを維持しているといえよう。一方、輸入については、内需低迷などを背景に数量ベースでは低い伸びに留まっていることを考えると、7-9月期、10-12月期に続き、1-3月期も外需がGDP成長率を押し上げる可能性が高まってきた。



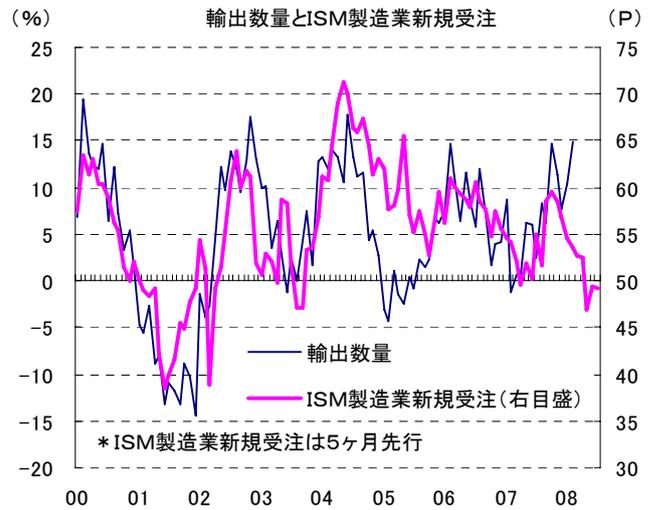
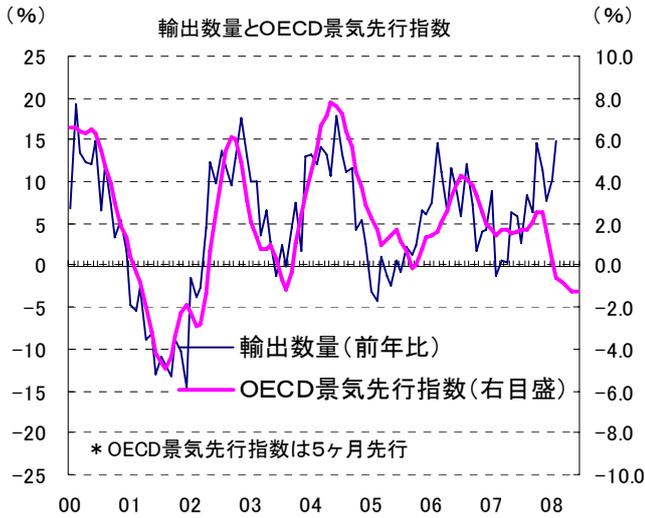
○輸出の先行き不透明感は強い

輸出は足元までアジア、新興国向け輸出の好調に牽引される形で高い伸びが続いているが、先行きについては不安材料も多い。米国景気については、住宅部門の調整が長引く可能性が高いことに加えて、雇用減少やマインドの低下などに伴って消費も減速が続いている。欧州経済についても、物価高騰に伴い消費が減速

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

している。こうした先進諸国の低迷が長引けば、これまで好調だったアジア、新興国などにも影響がでる可能性がでてくる。

ただし、米国については、5月以降、所得税の還付が順次実施され、消費の押し上げが期待できることなどから、景気の落ち込みにはいったん歯止めがかかる可能性が高いと考えている。米国経済の落ち込みが短期的なものに留まれば、アジアや新興国などへの影響は限定的なものとなろう。だとすれば、消費や設備投資など内需拡大が続く中国、中東、ロシアなどの新興国向け輸出が引き続き下支えとなり、輸出は増加基調を維持すると予想する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。